



社会福祉法人 熊本いのちの電話

KUMAMOTO INOCHINODENWA

通信 42号 平成24年3月



春爛漫、優しい季節の訪れです



「いのちの電話と私」

— いのちの電話ボランティアの道を求めて —

一期生として認定後の相談員活動、継いで研修担当としての私の時間、それは、電話を通していのちの厳粛さと向き合い、いのちの電話の存在の意味を問い続ける道程でした。

ボランティアのイメージは『生活の中の空き時間を提供する』が普通でしょうか。でもそれは、このいのちの電話には当てはまりません。私にとっても、これは最初に起こった大きなたじろぎでした。しかしそれも、実習から始めて活動の姿を深く感じていくほどに、「これは腰を据えて関わるものらしい」との気づきとなり、生活の一部となっていくことを思い出します。

月2回の当番と1回の学習会。やむを得ないキャンセルであっても年度内のどこかで穴埋めしなければならない厳しさは、並ではありません。しかし、この厳しさの上にこそいのちの電話の存在はあることへの納得が、積み重ねる時間と共に心身に根付き、いのちの電話相談員としての心の軌跡を描いていったように感じています。

掛け手の皆さんが背負われる人生、それを降ろす術を求めて歩かれる今という時の陰しさ。そこに描かれるのは、孤独、絶望、虚しさ、悲観、諦め、自暴自棄など万人万様の心模様。でもそれを受ける私の手には、私自身が得てきた私個人の納得しかないのです。

しかし、一旦相談員として受話器を取れば、私の納得がなんであれ、掛け手の視界に身を置いて傾聴し受容し共感することが求められる・・・その道程の困難さは、『私本体』と『相談員私』の葛藤ともなって、継続への迷いさえ起こしたものでした。

しかし、ふり返ってみればこの道を選んだのは私自身。道に踏み迷い方向に悩みながらも求め続けてきた日々は、そのまま、私自身の『生きる』そのものの舵取りでもあったと、つくづくと思います。

私にこの納得と充実をくださった、掛け手の皆さんも含めた全ての方々に、心からの感謝を感じます。

昨年出会った著書（*種村完司著『コミュニケーションと関係の倫理』）の「いのちの電話」の章に、『受けて自身が「すぐれた生活者」であり「高い見識の社会人」であることが必要』とあり、更に『おのおののボランティアによる自己研鑽、人間性の深まりや陶冶が欠かせない』ともありましたが、改めてこの活動の深みを見る思いでした。

では、さて、この実現をどうしていけばいいのか、今また、新たな課題を見た思いがしています。



社会福祉法人 熊本いのちの電話
研修委員 小澤 徳子

*種村完司氏…現在鹿児島短期大学学長。鹿児島いのちの電話の発足準備期間から関わっておられる先生です。

相談電話 096・353・4343

熊本いのちの電話 自殺予防公開講演会

「俺は流れの旅役者」

講師 玄海 竜二氏 九州演劇協会会長



2012年1月28日(土) 於 熊本県民交流館パレア

毎年開催する公開講演会、今回はマスコミの御協力と、ファンをたくさん抱えておられる玄海竜二氏ということもあって申込者が多数で、数日前からは、せっかく電話をくださった方にもお断りをする状態でした。参加者多数に喜びながらも、トラブルが起きないようにと、スタッフをたくさん集めて講演会に臨みました。

当日の参加者、約280名。玄海氏も、常日頃から人前に立つのは慣れているといえ、普段の公演とは違う講演で少し緊張の面持ちでした。自身の体験を交えながらの力説に来場者の中には涙する人の姿も見受けられました。

講演終了後、来場された皆様方より「ありがとう、感動した。」「皆さまのお働きに感謝です。」「頑張ってくださいね。」等の温かい言葉と共に「少しですが、役立てて」と、お気持ちを募金箱に入れてくださいました。

心配したようなトラブルもなく、満足した表情で会場をあとにされる皆様方を安堵の気持ちでお見送り致しました。

募金総額 17,264円。感謝、感謝の一日でした。(H)



■玄海竜二氏 プロフィール

4歳で初舞台、15歳で玄海竜二として座長襲名。22歳で全国座長大会に初出演。
1995年 九州演劇協会会長就任。大衆演劇旅役者文化を全国に向けて九州から発信。
俳優 津川雅彦氏に見初められ「ワンダフル一座」の師匠に抜擢される。
各大会の演出、構成、殺陣の指導も手がけている。
2010年 熊本県民文化賞 特別賞受賞。

小学校時代、僕が学校から帰ってくると、(預けられていた家のおじさんが襟髪を捕まえて玄関まで引きずっていき、「靴を並べんかー!」ランドセルも置きっぱなしだとまた引きずられて「ちゃんと片付ける所に片付けー!」と怒られるわけです。僕は何でこんなに怒られないかんとって、親父と違う意味で恐かった。旅役者でかけ小屋のようなところで生活していましたから、そのおじさんが僕にしつけをしてくれてたんですね。怒るのではなく叱るんです。だけど親父にずっと怒られて育ったので同じ種類の人間と思い、心に鍵をかけてしまいました。

その頃、小学校の先生が、放課後残してマンツーマンで心のケアにあたってくれました。まず、どもるということを直そうとしてくれた。知っている歌で歌いながら本を読んでご覧と言われて、毎日やっていたらどもることが直ってきて、少しずつ友達も出来て心の鍵もあけることが出来ました。

中学時代、大人が敵に思えてきて悪いことを繰り返して、警察に捕まります。あるとき、1人の警察官が涙を流しながら僕の手を握って「お前そのままだったらやくざになるか泥棒になるか、刑務所とシャバを行ったり来たりする人間になるぞ。そんな一生を送りたいか。」と、必死になって論してくれます。大人にもこんな人がいたんだと気がつきます。

中学校に勉強道具を取りにいき、そこで担任の女性の先生が、泣きながら僕に校庭で頭を下げてくれました。「私のせいでこんなことになって本当にすまない。あなたに何もしてやれなかった。どうか先生を許してください。」

2人の大人が僕を助けてくれました。僕は、その大人の為に心の中で

約束したんです。もう二度と盗みはしない。人を傷つけたりしない。

(親友沖田浩之を自殺で亡くし)心の底から泣きました。何でもひとつ言ってくれなかったのか。自分にも経験があるけれど、役者には壁ってものが幾重にも立ちはだかつて、そのたびに死と隣り合わせになるのです。行き詰ってどうしようもない時、誰にも相談できない時、そういう考えを起こすことがあります。でも僕の場合は、そのたびに周りの人から「お前の振り子は片方にしか振れとらん。だから時計の針が進んどらん。振り子は両方に振れてこそ針は動き始める。芝居のことばかりで遊びが何もない。」と言われたことを覚えています。

苦勞を楽しみまっしょい！！

壮絶な人生の中から肝に銘じたこと
「自分を心底心配し泣いてくれる人がいた」それが支えでした。

一人ではない、周りに関心を持ち続けることが大切です

そして、苦勞を楽しみまっしょい！！
きつと一歩が踏み出せます

死ぬのは自分の勝手なのかもしれない。自分の命だから、自分がどう使おうと勝手なのかもしれない。でも、関わった周りの人間がどれだけ傷つか。残されたものがどんな思いをしてまた生きていかなくちやいけないだろうと考えたことがあるのか。人間は強くない、弱い生き物だと思います。何かに頼らないといけない

こともあると思います。頼れる人間が傍にいればその人達に聞けばいい。アドバイスを買えばそれで助かることもある。でも、周りに誰もそういう人がいなかったら誰に言えればいい。どんな人も命の重みは変わりない。そのためにボランティアで一人ひとりの電話の応対をなさってらっしゃる方々に、本当に頭が下がります。

(講演より抜粋したものです)

「自分をみつめて」

相談員ヘクリック

Vol.17

14期 K・K

今から14年ほど前、貧血で点滴を受けながらYMCAの階段を上り養成講座を受けていたのが、ついこの間のようなようです。そんな私が相談員になってから現在まで、電話器の向うの話の内容や話す声で、冷静で穏やかな自分、イライラする自分、一緒に涙する自分をずっと見つめてきました。それは、今の自分をどれほど成長させてきたのだろうか？と思う時、人と付き合い生きていく上で必要な『受容すること』『寄り添うこと』『許すこと』が、いつしかコントロールできていることに気づきます。「体も心も元気」だということが、このボランティアを続けるには一番大切なことだと思います。

若い期の人が「何のために来ているのだろうか？」と悩んでいる時、私は「3年したらきっと気づくことがあるから！」と、言い続けています。“無理をしないで出来る時に出来ることを出来るだけする”それをモットーにここまで続けてきた私ですが、事情があり2回休務をしました。誰もがいろんな事情を抱え、続けていくのが困難になることがあると思いますが、そんな時は辞めてしまうのではなく、暫く休むというのも選択の一つではと思います。私も仲間や事務局のお陰で、2度の休務から帰ってくる事が出来ました。たくさんの人との出会い、これも大切な財産です。だから周りの人への感謝を忘れないで、これからも元気で笑顔が絶えない自分でありたいと思います。受話器の向うの誰かに少しでも元気を届けられるように…。

養成講座 第28期生修了式



平成24年3月6日、熊本YMCAの403号室に於いて、受講生14名の修了式が行われました。まず赤星副理事長が挨拶に立ち、昨年の5月から約1年間毎週火曜日、受講を続けてこられたことを、ねぎらわれました。そして、「自分を褒めてやってください」と言われ、「この一年間の経験が、実生活においても、おおいに役立つでしょう」と述べられました。

次に、池田研修副委員長からは、「開講式でお会いしたときは、みなさん不安と緊張のお顔でした。今日は若干の不安もありながら、今後、相談員になる意気込みが感じられます。4月から、ロールプレイではない実際の電話を受けることとなります。今後も研修を重ねながら、相談員として認定されるよう頑張ってください」と激励の言葉がありました。

そして、一人ひとりに修了証書が手渡されました。今後、宝物の一つに加えてほしい修了証書でもあります。

28期生代表の挨拶で、「自分を知り、他人を知り、他人を援助する能力を身に付けるための研修だった。同期の方々とのおふれあいの中で絆が深まった」と謝辞と今後の決意を述べられました。相談員会長からは、お祝いの言葉とともに、「4月から先輩相談員一同待っています、これからいっしょに頑張りましょう。」と言葉がありました。

その後は、なごやかに茶話会。一つの大きなことを、やり遂げた達成感と今後の決意が感じられる、みなさんのお顔でした。(H)

事務局日誌

平成23年11月～24年3月



| | | |
|------------|---|---|
| 23年11月 | 3日 8日 10日 11日 20日 24日 27日 | 12日・20日・28日 いのちの電話震災ダイヤル 統計・分類検討委員会(東京) フリーダイヤル(8:00～11日8:00まで) 定例運営委員会 くまもと市民ボランティア週間 バザー 熊本県担当課より来館監査 公開講演会「PTSDの理解と対応」講師仁木啓介氏 |
| 12月 | 2～3日 6日 9日 10日 17日 22日 27日 | 日本いのちの電話研修担当者セミナー3名出席(東京) 15日・23日・31日 いのちの電話震災ダイヤル 定例運営委員会 フリーダイヤル(8:00～11日8:00まで) 日本自殺予防シンポジウム「沖縄」8名参加 再生～つなぎ合ういのち～ チャリティ上映会「アンダンテ～稲の旋律～」 統計・分類検討委員会 (東京) |
| 24年1月 | 8日 10日 13日 15日 28日 30日 | 17日・25日 いのちの電話震災ダイヤル フリーダイヤル(8:00～11日8:00まで) 定例運営委員会 熊本いのちの電話新年会 阿蘇キャンプにて 自殺予防公開講演会パレオホール 演題「俺は流れの旅役者」講師 玄海竜二氏 熊本県自殺対策連絡協議会 テルサ |
| 2月 | 2日 10日 14日 15日 18～19日 21日 23日 | 11日・19日・27日 いのちの電話震災ダイヤル フリーダイヤル(8:00～11日8:00まで) 定例運営委員会 NHK取材 21日放映 予算委員会 養成講座一泊研修 阿蘇キャンプ 統計・分類検討委員会 (東京) 熊本市自殺対策連絡協議会 ウエルバル |
| 3月 (予定) | 2日 6日 9日 10日 23日 | いのちの電話連盟 理事会 (東京) 統計・分類検討委員会 15日・23日・31日 いのちの電話震災ダイヤル 第28期養成講座修了式 定例運営委員会 フリーダイヤル(8:00～11日8:00まで) 評議員会・理事会 平成24年度事業計画(案)予算(案)の審議 |

維持会費・賛助会費 維持会費・賛助会費をおよせ下さった方々

2011年11月21日～2012年2月29日 (敬称略・あいうえお順)

| 法人・団体の部 | | | 個人の部 | | |
|--|---|---|---|--|----------------------|
| あさひ合同会社 イケメンクラブ インマヌエル熊本キリスト教会 熊本市キリスト教連合婦人会 熊本草場町教会 熊本白川教会 熊本聖三一教会 (株)熊本全日空ホテル ニュースカイ 熊本大学保健センター (株)熊本日日新聞社 | 河野 未嗣 難波 信義 栗津 安和 上田 正夫 岸川 秀樹 | 熊本YWCA 国際ソロブチミスト熊本 (株)小竹組 三陽(株) 誠光寺 添島歯科医院 (株)たしろ住設 遠山歯科医院 東京エレクトロン九州(株) 及び 従業員一同 中村孝彦税理士事務所 中村 孝彦 | 江越 柁記 木下 修 島村 純孝 添島 義樹 田代 貴久 遠山 啓介 | 西日本システム建設(株) 日本アッセンブリーズ・ オブ・ゴッド教団 熊本聖書教会 日本福音ルーテル室園教会女性会 (医)日隈病院 日隈 健作 森山法律事務所 森山 義文 YMCAチャリティゴルフ会 | (HP掲載用は、個人名を伏せております) |

※その他、お茶・コーヒー等備品のご提供いただき、ありがとうございました。感謝をもって、ご報告させていただきます。

いのちの電話に皆さまのご支援をおねがいいたします

(維持会費・賛助会費という形で、どなたでもいつでもご支援いただけます。)

※「社会福祉法人 熊本いのちの電話」への寄付には、税法上の寄付金控除が受けられます。

(イ) 維持会費

個人会費 A…年額10,000円 B…年額5,000円 C…年額2,000円

法人会費 A…年額50,000円 B…年額30,000円 C…年額20,000円

(ロ) 賛助会費 金額は随意です。

口座名/社会福祉法人 熊本いのちの電話

郵便振替 01910-8-11836

振込先

銀行振込

ゆうちょ銀行 ^{ナナイナ}七七店 (普)2011232

肥後銀行 水道町支店 (普)1271746

熊本ファミリー銀行 下通支店 (普)2122553

相談員養成講座のご案内

熊本いのちの電話では、多くの皆様に「自己成長」を目指した講座を受講していただけるように、相談員養成を目的とする講座を、広く一般に公開しております。講座では、カウンセリングの基礎を学びながら、自己を見つめ他者を理解する研修を行います。

前期講座 (全23回・2012年5月8日～10月9日)
修了後、電話相談員を志す方はロールプレイを中心にした**後期講座 (全21回・2012年10月16日～2013年3月26日)**を受講していただきます。

◎受講資格

20歳以上の男女で「自己成長のためのカウンセリング」について学びたい方、また、電話相談員を志す方であれば、どなたでも受講できます。

◎応募期限：2012年4月末日

◎募集人員：30名

◎問い合わせ・申込先：熊本いのちの電話事務局 TEL (096) 354-4343

※ホームページでも詳しいプログラム内容を掲載しております。

■編集後記



△身も心も凍り付いたあの惨状をテレビの画面で見て一年の歳月が流れた。あの災害の直後の心の痛みを編集後記に綴った—その39号には、「24名の研修生が誕生した！」よろこびの記事がある。そして一年、この42号にもまた「養成講座修了式」を写真と共に掲載できる喜びをかみ締めている。△何でもなさそうな「事務局日誌」。無味乾燥な数字が目強い印象の図表

だが・・・その月ごとの項目の中に必ずある「いのちの電話震災ダイヤル」の記録。相談員の方々も、その他の皆さんにも何でもない記事の片々から、震災ダイヤルはほんの氷山の一角にすぎなくて、水面下にはフリーダイヤルがあり、そして本来の相談業務があるということ・・・そして、その出発点こそが「養成講座」なのです。△ことのほか厳しい冬でしたが、被災地にもここ熊本にも春の足音と共に桜の便りが・・・。

(桜散人)



社会福祉法人 熊本いのちの電話
事務局

〒860-8691 熊本中央郵便局私書箱155号
TEL096-354-4343

発行人:福田 稗 編集:広報委員会

熊本いのちの電話 検索